

令和3年度公民館部会の協議テーマ

『公民館サークルの育成・支援について』

令和3年度の協議テーマについては、令和2年度の見解の中から「地域でのサークル活動」を取り上げ、公民館サークルの育成・支援に焦点をあてて、現状を分析し、今後の取組推進を検討します。

【令和2年度部会意見】

地域でのサークル活動等について

- 団体に入るとは面倒であるという気持ちの原因を探る
- 新しく参加する人が委縮したり、疎外感を感じなくしたりすることが必要
- 地域に仲間がいて、活動が楽しいという気持ちを高める工夫をする
- 公民館サークルの認知を高める工夫をする

1. 現状分析(前回会議の意見より)

【公民館活動の認知の強化】

- サークル入会体験フェスタ期間前から公民館ロビーでサークルの作品展示を行うと、それを見た人がフェスタ期間中にサークル見学を促す契機になるのではないか。
- 公民館の認知を高めるための「見える化」を図ることが必要。公民館ガイド発行は第一歩であるが、紙媒体以外のPRも必要。高齢者には紙媒体、若い世代に向けてはスマホなどインターネット環境から情報が有効なので、紙媒体とインターネット媒体の2本立てが良い。さらには新聞、ミニコミ誌、TVで取り上げてもらえば、町外の人から町内の人に伝わり注目度が上がる。
- 若い人が公民館に来て活動をして欲しい。

【既存サークルへの加入促進の課題】

- 運動系サークルなどは活動場所の広さと人数の兼ね合いがあり、人数が増えると活動が難しくなるため、サークルに新規会員を入れられないという理由もある。
- サークルが入会フェスタの参加を拒む理由に、技量が違う新しい人が入ってくると、活動にギャップが生まれ、一から指導するにはサークル活動がしにくくなるため、受け入れることはできない場合もある。
- サークルに新しい会員が入ると、その人を指導するために活動内容が初心者向けになって元からいるベテラン会員がつまらなく感じ、脱退してしまうこともあるので、新規加入者を入れたがらないサークルもある。
- 会員が高齢者のサークルは活動回数や人数などのサークル活動の間口を狭くしている傾向がある。コロナ禍においてはそれが顕著となり、解散したサークルも例年より多い。調理実習のサークルはコロナ禍で全く活動ができないため、脱退したところもある。
- 利用者の会でサークル同士の抱えている課題を情報交換したり、他のサークルと交流したりする機会があるとよい。

- 「公民館サークルの支援」は、既存サークルに会員を増やすという支援より、新しいサークルを作った方が育成になる。

【公民館講座からサークル化した成功例】

- 回数が多い講座は、参加者同士が仲良くなり、サークル化に繋がりやすい。
- 講座に参加して、もうちょっと続けてみたい、健康にいい等と魅力的に感じられる内容であるとサークル化に繋がりやすいが、サークルにしようと言頭を取ってくれる人の存在が大きい。
- 参加者アンケートで「楽しかった」「次回もまたお願いします」というような声を拾い、同じ講座をもう1回開催して同じ人が参加したら、公民館側から声かけをしてはどうか。

【サークル参加に繋がる取り組み】

- 北部公民館生涯学習推進事業のシニアクラス講座はサークルに声かけをして、指導を依頼している回もある。講座でサークル体験をしてもらい、希望があればサークル加入もしてもらえたら楽しいのではないかと考えている。
- 町民センター事業の「だがしや楽校」は、地域で特技や知識のある人にブースを作って、体験・披露してもらう機会である。発表者に公民館講座の講師に登用して、サークル化に繋げる流れもできる。

2. 今年度のサークル育成や地域コミュニティづくりを支援する取り組み

① サークル入会体験フェスタ（各館共通事業）

実施時期：11月1日（月）～11月30日（火）

会場：町民センター、町民センター分室、北部文化福社会館、南部文化福社会館

内容：○公民館サークルの活動に興味のある方を対象に、サークル入会体験フェスタとして、サークルへ体験参加ができる期間を設けて、体験参加や入会を促進する。

○フェスタの予定表を1ヶ月前から町内掲示板・ホームページに掲載

○フェスタ期間中にロビーにサークル活動のスケジュール展示

○フェスタ期間中に各館で作品展示を実施

② だがしや楽校（町民センター事業）

主旨：自分の趣味や特技を持ち寄って、駄菓子屋の店先や祭りの屋台のように気軽な発表を行い、見る側と見せる側、人と人とのつながりを生み出すことにより、地域住民同士のふれあいの創出と絆づくりを目的とする。

*だがしや楽校…山形の学校教員だった松田道雄氏（現・尚絅学院大学教授）が発案した青少年の健全育成に向けた地域活動から発展した取り組み。だれもが手軽に自分の知恵・技術・つながりを見せ合う集いの場として、祭りの屋台形式で「趣味・特技・遊び・学び・作品」を披露する「自分みせ（見せ・店）」を展開し、子どもと大人が気張らず交流し、社会力を育む活動として、全国の生涯学習事業、地域福祉事業、商店街活性化事業などに応用活用されている。

実施時期：出店者説明会 10月31日（日）13時30分～14時30分

出店者会議 11月14日（日）13時30分～15時30分

店開き・本番 12月4日（日）13時30分～15時30分

会場：町民センター 展示室1、展示室2、ロビー（店開き・本番）

対象：出店者：町内在住・在勤の方 15名程度

見学者：町内在住・在勤の方 100名程度

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、身体的距離に留意し、出店者同士の間隔を十分に設けるとともに、見学者で会場が密にならぬよう、必要に応じて入場制限を行う。

※ 参考資料に令和元年度実施時のチラシ添付

③ シニアクラス（北部公民館生涯学習推進員事業）

主旨：寒川で人生のセカンドステージを迎えた人を対象とするシニア向け生涯学習事業で、9月～3月のカリキュラムに予定された講座を受講する。講座内容については、好みや得手不得手があることが予想されるが、「新しい発見」、「未知への興味」がセカンドライフの魅力としてチャレンジを促す。

内容：第1回（9月）：ニュースポーツを楽しもう

第2回（10月）：防災講座

第3回（11月）：手芸講座（公民館サークル協力）

第4回（1月）：カラダと健康（公民館サークル協力）

第5回（2月）：ヘルシークッキング

第6回（2月）：役に立つサポート技術を覚えよう

第7回（3月）：参加者による懇談会

※ 緊急事態宣言措置期間中の講座は中止または延期対応とする。

会場：北部文化福社会館

対象：町内在住の概ね50～70歳代の人 15人

④ 公民館まつり（各館共通事業）

公民館まつり実行委員会を8月21日に実施し、令和3年度は中止することを決定。

3. 「公民館の認知を高める」、「若い世代の利用を増やす」、「新しいサークルを作る」取り組みについて

「1.現状分析」「2.今年度のサークル育成や地域コミュニティづくりを支援する取り組み」で上げられている意見や事業内容のほかに、「公民館の認知を高める」、「若い世代の利用を増やす」、「新しいサークルを作る」について、ご意見や新たなアイデアがありましたら、別添の「意見報告書」へ記載をお願いします。

【公民館の課題】

近年は公民館の利用者の高齢化や固定化が進み、総利用者数は減少傾向にあります。利用団体数は横ばいであることから、定期的に利用している公民館サークルの会員数の減少が考えられます。これは先述の地域の人々のつきあいの疎遠や、地域コミュニティの弱体化も関連し、公民館が人と人をつなぐ役割として、サークルの育成、支援を図る必要性があります。

【現代的・社会的環境による変化に伴う多様な課題の顕在化】

- 少子化による人口減少
- 高齢化の急激な進展
- 地域経済の縮小等の社会情勢の急激な変化
- 一人親世帯の増加等を背景とした貧困問題
- 地域の伝統行事等の担い手の減少
- 人と人とのつながりの希薄化による社会的孤立の拡大
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活の変化

【これからの公民館に求められる役割】

地域コミュニティの衰退が社会全体の課題となる中、公民館が地域の学習と活動の拠点として機能するために、今後求められる役割に必要な取組を推進していく必要があります。

- 住民が主体的に地域課題を解決するために必要な学習を推進する役割
- 学習の成果を地域課題の解決のために実際の活動につなげていく役割
- 地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割
- 地域の防災拠点としての役割
- 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校との連携の強化

→求められる役割を果たすために公民館では今後どのような取組の推進が必要か？